

平成 29 年度第 1 回石狩市公共交通空白地有償運送運営協議会 議事録

日 時：平成 30 年 3 月 8 日【木】10 時 00 分～

会 場：石狩市役所 4 階 401 会議室

出席者：次のとおり

委員			事務局		
役 職	氏 名	出欠	所 属	役 職	氏 名
会 長	小鷹 雅晴	○	企画課交通担当課長	課長	上窪 健一
委 員 (職務代理者)	東 邦彦	○	企画課企画担当	主査	池内 直人
			企画課企画担当	主任	中村 淳哉
委 員	田岡 伸義	○	厚田支所（申請団体の支援所管）		
委 員	澤田 純一	○	厚田支所地域振興課	課長	高田 靖仁
委 員	荒井 征人	○			
委 員	小山 玲子	○	申請団体		
委 員	中山 俊彰	○	あつたライフサポートの会	理事長	佐藤 勝彦
委 員	佐藤 雅治	○			
委 員	佐藤 勝彦※	○	※佐藤勝彦委員については、審議の際は、委員の職を外		
			れ、申請団体の代表者とし、説明員となる。		

1 開会

事務局から、平成 27 年 3 月の国の通達により過疎地有償運送から公共交通空白地有償運送へと名称が変更となったことを受け、本協議会の名称も置き換えていることを報告。

2 委嘱状交付

委員の任期は、平成 30 年 2 月 23 日から 3 年間となることを報告。

3 主宰者挨拶（小鷹企画経済部長）

本協議会は厚田区において、「特定非営利活動法人 あつたライフサポートの会」が行う公共交通空白地有償運送について協議するため、平成 21 年 9 月 1 日に設置。

この公共交通空白地有償運送は、人口減少高齢化が進んでいる過疎地においてそのニーズはますます高まると考えており、会が行う有償運送は地域主導型事業の成功事例。関係各位へ感謝申し上げる。

本日は、今月で登録期間が満了となる会が来月以降も事業継続していく意向にあることから、更新可否について協議願う。

4 委員紹介

事務局より委員の紹介、および要綱第4条に基づき石狩市企画経済部長の小鷹委員が指名されていることを報告。

5 本協議会の運営について

会議録と傍聴者による意見等について、事務局より説明し、次の通りとすることに決定した。

- ・ 議事録については「要点筆記」とし、内容は会長の確認により確定。
- ・ 傍聴者による感想や意見は、文書での提出を認める。

6 議題（1）厚田区の公共交通空白地有償運送の必要性について

事務局より資料説明の後、あつたライフサポートの会代表である佐藤氏よりこれまでの取組経過について報告がされ、質疑応答の後、「厚田区の公共交通空白地有償運送の必要性について」は当協議会として「必要である」と判断された。

《あつたライフサポートの会代表 佐藤氏 発言要旨》

平成22年に実施した65歳以上を対象にした全住民アンケート調査によって、将来の交通手段の確保が必要と感じたことが、この取組を開始した動機。

開始当初の平成22年は無料で、翌年から現在の形である有償運送を開始し、年間利用者は500～600人で推移。

これまでの取組によって実感したことは、交通手段が無くなると引きこもり気味になり、その人にとっても、また地域にとっても悪循環となり、公共交通の空白化は過疎地において大きな課題である、ということ。

このため、永続的な実施が必要であり、この事業が継続出来るよう協力いただきたい。

《主な質疑応答》

【委員】

あつたライフサポートの会が実施する有償運送に限らず、公共交通空白地への対策は重要。市の取組や考えを伺う。

【事務局】

市の総合計画には、移動手段というのは大事なものとして盛り込んであり、平成30年度に地域公共交通網形成計画を策定し、それぞれの地域の特性に応じた公共交通の展開を図っていくほか、ニーズをしっかりと把握しながら持続可能な公共交通に向けて取組を進めていく。

7 議題（２）特定非営利活動法人「あつたライフサポートの会」の公共交通空白地有償運送の更新登録の申請について

事務局より資料説明と質疑応答の後、この協議会の協議事項である「あつたライフサポートの会が収受する対価」について「適正なものである」と判断された。

《主な質疑応答》

【委員】

サポートする側の人数が減っているようだが、市を含め今後の考えはどうか。

【あつたライフサポートの会佐藤代表】

指摘の通りサポートする側の高齢化が進み、年々減少している。

後継者確保の動きは従来からしているが、過疎地域における若い人達の参加は経済的、時間的余裕が必要で、担い手を見つけ難いのが現状。

将来的に考えると、公共交通空白地の有償運送というのは、今まで以上に大きな地域課題になり、これを地域のボランティアだけでは支えられないことを危惧している。現在、他の地域課題も含めて地域で協議をしている状況。

【事務局】

市としても地域交通の持続性について地域公共交通網形成計画に盛り込むことは必然事項として捉えている。

8 その他

事務局より、申請団体である「あつたライフサポートの会」に対して法令で定める様式にて協議が調ったことを証する書類を交付することを報告。

なお、会議全体を通じた意見等は以下の通り。

【委員】

石狩市はもっと若者を呼びこむべき。例えば厚田区で廃校になる小学校を活用してイベントなどを通して知り合った人達を地域に巻き込むなど。この協議会での協議事項に縛られず、将来的な計画性を立てて地域交通をどのように維持していくかの議論が必要。

全国的な知名度のあるライジングサンが実施されて 15 年くらい経つのに、そこからいっても離れていない厚田や浜益が認知されてないのは、石狩市の取組不足では。もっと厚田区、浜益区と連携して P R するべき。一時は合併で人口増えたがこのままだと減る一方。検討するだけでなく、しっかり対策を実行して欲しい。

【事務局】

実感できるような効果があげられず申し訳ない。

観光を産業という位置づけにして厚田区にオープンする道の駅を軸に色々な展開を予定し

ている。

また、平成 26 年に導入した地域おこし協力隊の制度により、これまで厚田区では 4 名、浜益区では 2 名が新たに地域振興に関わった。また、北海道大学などの学生との地域活動を通じた交流も続いており、今後も何か展開できるよう考えていきたい。

平成 30 年4月3日 議事録確定

石狩市公共交通空白地有償運送運営協議会

会 長 小 鷹 雅 晴